

東三河スタートアップ・サテライト支援拠点検討プロジェクトチーム
第3回会議 議事録

日 時：2021年3月22日（月）午前10時から午前11時まで
開催方法：Web会議

1 開会

2 挨拶（リーダー：神野東三河広域経済連合会会長）

- 今回は、第1回の会議と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、ウェブ会議ということで、大変残念だが、工夫しながら実りのある会議にしていきたいと思う。
- 昨年の4月にこのプロジェクトチームを立ち上げ、東三河地域におけるサテライト支援拠点の在り方の検討を進めてきた。コロナ禍ではあるが、約1年間、それぞれがスタートアップの具体的な取組を進めていると思う。県の方も名古屋の支援拠点の活動を中心に、日本はもとより世界の各スタートアップ機関と色々な形で関係性を持ち、取組を推進しているとお聞きしている。今日はその内容についても、お話を伺えると思う。
- 東三河については、愛知県全体の中で、特徴を生かした位置付けにしていくため、2回目の会議で「農業・食」を中心としたスタートアップの取組をやっていこうと話が進んでいる。今日ご参加の皆さんの現状のお話を伺い、より機能的なスタートアップの基盤を作っていくとともに、オープンアクセスで多くの人たちが参画できるようなエコシステムを作っていけたらと思う。プロジェクトチームの皆さんも主体的、積極的に取り組んでいただき、全体の機能を生かしていきたい。
- 限られた時間ではあるが、有意義な時間としていきたいと思うので、よろしく願い申し上げる。以上、私からの挨拶とさせていただきます。

3 議題

(1) ワーキンググループにおける検討結果について

- 事務局から説明（資料1～4）

中部ガス不動産株式会社（サーラグループ）赤間氏

- 統括マネージャーは、どのようなキャリアの方が、どこで活動するイメージか。

事務局

- 統括マネージャーの活動拠点については、資料2の左下の運営体制にあるようにCLUE、emCAMPUS、Startup Garage という支援拠点があるので、このような場所に出向いて活動してもらおうことを考えている。また、東三河地域で起業されている方のところへ伺ったり、商工会議所等にもお伺いすることになると思う。また、統括マネージャーは、起業支援に精通しており、農業関係の知識やネットワークが

ある方になっていただく予定である。現時点では、予算が成立していないため、明確にお示しできないが、お示しできる段階になったら、速やかにご紹介したいと思っている。

イノチオホールディングス株式会社 石黒氏

○ 統括マネージャーは、どのくらいの任期で考えられているのか。

事務局

○ 行政は予算単年度主義であるため、当面は1年間、設置していきたい。その後については、活動状況を見て判断していきたいと考えている。

東三河広域経済連合会 神野氏（リーダー）

○ 県も状況が変わっていくため、そのような回答になるが、ステーションA i のプロジェクトとしては、複数年のプロジェクトなので、我々としては複数年続くプロジェクトとして理解したいと思う。

○ 事務局の方で資料をまとめていただいたが、私から補足させていただく。それぞれのスタートアップの取組をオープンコミュニティの中で理解しながら、連携をとって、どのように付加価値を生んでいくかを、サテライト支援拠点でサポートしていきながら、かつ、今年の11月頃にはイベントの形で地域社会全体の機運を高め、意識の底上げをするとともに、既に取組を進めている人を応援するということであると思う。武蔵さんはアグリトリオのような取組をやられており、技科大のそれぞれの先生が地域外の機関と、農業・食に関する研究開発の取組をやっていることもあると思う。それをどのように地域に生かしていくか考えていくと、サテライト支援拠点の意味が出てくると思う。

○ このプロジェクトに直接的に参加していない農業・食に関する企業もたくさんあるが、その情報を我々は十分には知りえていない。自治体も豊橋市をはじめ東三河の各自治体で色々な取組があると思うが、十分な情報があるわけではない。農業というJ Aのような大きな組織もあり、どのように関係性を持っていくかを考えていかないといけないと思う。

東三河広域連合 野尻氏

○ 東三河広域連合としては、ビジネスプランコンテストなどを東三河に広げることがはやっていくが、具体的な支援事業となると、まずは豊橋市だと思う。広域連合は、サテライト支援拠点の情報を8市町村に伝える、そして情報を収集するという役割を果たしていきたいと考えている。そこで、事務局にもお願いだが、豊橋市の存在は大きいので、推進協議会には豊橋市を参加させていただきたいと思う。また、今後、各市町村から協議会への参画の要望があれば、柔軟な対応を検討していただきたい。

事務局

○ 事務局としては、推進協議会はまだ固まったメンバーではないので、柔軟に広げていくこととしたいと思っている。

東三河広域経済連合会 神野氏（リーダー）

- それでは、協議会メンバーは参加の要望に応じて増やしていくということで、前向きに進めるということでしょうか。
(異議なし)

(2) スタートアップに関連する取組等について

中部ガス不動産株式会社 (サーラグループ) 赤間氏

- 駅前再開発の emCAMPUS は、姿ができつつある。1階と屋上農園が食の発信の場ということで、先ほど説明のあった農業・食を中心としたイベントの連携開催、これに向けて、自分たちでもイベントを作りながら、連携開催の場としても提供していきたいと思っている。1階と屋上農園を作っていく過程で、地元の生産者、有力な食品企業とのルートができてきたので、スタートアップの参加を促す窓口にもなればと思う。5階は学びのフロアだが、ここではプログラムを考えており、企業向けプログラム、地域の方の生涯教育プログラム、スタートアップ、事業創造向けプログラムの3本柱で考えている。これもサーラ単体で考えていくというよりは、豊橋技科大や地域の企業と連携しながらプログラムを作っている。事業創造でいうと、若者のIPOを目指したスタートアップもそうだが、もう少し緩い主婦やリタイアされた方の取組をサポートする場を作っていきたいと考えている。

武蔵精密工業株式会社 伊作氏

- スタートアップに関しては、去年の11月頃から新しいインキュベーションプログラムを回している。今年はかなり面白い提案が出てきた。特に食・農に関しては、JAひまわりさんの提案や、武蔵からは防災食の提案が出ている。スタートアップとして尖った提案が出てきており、それをどうやって育てていくかということが課題だと思う。今までCLUEはどちらかというとインキュベーションよりのゼロイチの取組を世の中に出していくことを目指していたが、ここ1年くらいリモートで色々なところとつながる中で、皆さん1から10に持っていくことに大変苦勞している。当初話していた資金調達はもちろん、スタートアップはコネクションが少ない中で、どのようにコネクションを広げていくかということが課題としてある。CLUEとしても進めていこうと考えているが、このチームとしては、いかに出資者を募り、色々なところに繋いでいき、結果的にどうやって育てていくということがベースになると思う。今はコロナになって世の中が変わってきた。スタートアップにとってはチャンス。この活動をよりスピード感をもって展開していきたいと思う。

イノチオホールディングス株式会社 石黒氏

- 食・農のスタートアップ関係で活発に活動しているのが、JAグループがやっているJAアクセラレータープログラム。3月末で3期目の応募が締め切れようとしているが、全国的にかなりの応募が来ていて、ゼロワンブスターさんが事務局をやっており、JA全農と農林中金が中心となってプログラムを進められている。

浜松も食・農のベンチャーには、浜松磐田信金さんが中心となって、投資もしているし熱心に取り組まれているので参考にしていきたいと思います。

株式会社サイエンス・クリエイト 堀内氏

- 4月以降の取組としては、東三河ビジネスプランコンテストですが、サイエンス・クリエイトの自主事業として、今年度で20回目を迎え、毎年100件を超える応募があり、起業につながる率も高いものである。これまで豊橋市から50万円、協賛金50万円と、100万円の事業だったが、新年度からは豊橋市だけではなく、東三河広域連合として全市町村が参加し、事業費も150万円となる。そうしたことから、新年度には、食と農をテーマとしたビジネスプランをするようなコンテストにしていくとともに、積極的にPRをして、広く東三河全域から応募を促していきたいと考えている。
- 開業4年目のスタートアップガレージでは、今年度はコロナの中でありながら、6千人の利用があり、相談件数は600件、新規事業の立ち上げが20件と、活用が広がってきている。新年度は、次のステップとして、それぞれのステージに応じた資金調達の手段を学ぶとともに、ベンチャーキャピタルや金融機関、自治体とのつながりを緊密にするための連続講座なども行っていく。
- また、今年度から取り組んでいる衛星データ利活用支援事業では、豊橋市をテストフィールドに衛星データビジネスに挑戦する企業3社の実証実験を支援しているが、そのうち1社は豊橋市で創業し、1社は豊橋市内に営業所を開設しており、地元での起業、事業展開を促している。新年度は実証実験をさらに一步前進させて、研究開発を一緒に行っていきたいと考えている。
- また、新年度から豊橋技術科学大学が世界で初めて開発をした、イオンイメージセンタサーの技術を核として、企業と大学が連携をして、新たな基幹産業の育成を図る文部科学省の事業に、市と連携して、地元企業がこのプロジェクトに参画しやすい補助制度を創設し、後押しをしていく。0-1（ゼロイチ）企業の創出も大事だが、この地域に定着し、地域の産業を支えるような1-10（イチジュウ）企業の育成も目指していきたいと思っている。

豊橋技術科学大学 山本氏

- 基本的には、アカデミアとして、農業・食の分野で貢献していきたいと考えている。農業・食に関する教育研究の拠点を構築していきたいと考えている。全国的にも、福島大学、私立大学の摂南大学、龍谷大学には農学部を設置しようという動きがあるなど、農業に関する関心は高い。
- 現在では、高山教授を中心として、IT農業に関する分野にクロスアポイントメント制度なども取り入れながら、教育研究に係る体制を整備している。これをベースに、農業・食の分野に拡充していきたいと考えている。また、先端農業バイオリサーチセンターから生み出された優秀な人材の活躍が、教育研究拠点の更なる発展

に貢献していくものと期待している。

東三河広域連合 野尻氏

- 事業的にはサイエンス・クリエイトと協力して、ビジネスプランコンテストなどをやっていくが、今後、東三河全体でやっていきたいことがあれば、サイエンス・クリエイトと協力してやっていきたいと考えている。広域連合の行政としての役目は、東三河8市町村の情報共有にあたって、情報収集や提供など、ハブとしての役割を果たしていきたいと考えている。

株式会社サイエンス・クリエイト 堀内氏

- 東三河のスタートアップの支援は色々な機関が様々に展開しており、活発ではあるが、東三河の中でも温度差がかなりある。サイエンス・クリエイトでもイノベーションの創出支援など、様々な新産業の創出支援を行っているが、財源は豊橋市からのものであるため、なかなか他都市まで回せないという実情がある。このスタートアップの取組を契機に東三河の各市町村も参加していただいて、起業創業支援、研究開発支援を一緒に行っていくような体制を作っていくことも大事だと思う。

愛知県 松井副知事（サブリーダー）

- WGの検討結果をご確認いただいたということで、資料3にあるように、農業・食をテーマに皆さんの取組を有機的に結びつけることで起爆剤になっていくのではないかなと思う。ステーションA iの開設が延びて24年になったため、東三河のサテライト支援拠点に対する愛知県としての注目度が高くなっている。2月議会の質問の中でも、東三河の統括マネージャーはどうなっているのかなど、具体的な質問が出ている。浜松との連携の話も、11月のイベントの時には、しっかりと連携してやるような形にしたい。知りえていない情報をいかにつかむかということも大切。こちらから発信していくことで、向こうから寄ってくるようになれば良いと思う。広域連合さんから話があったように、豊橋市さん中心ではあるが、広域連合さんを通じて8市町村に情報を伝えて、参画いただけるようにしたい。奥三河で10年かかったチョウザメも、もうすぐ卵ができるというところまできているので、そういうものはもったいない。声をかけて参画していただきたいと思う。今回、推進体制が変わり、サイエンス・クリエイトさんが事務局を務めていただけることになったので、よろしく願いしたい。統括マネージャーが来年度入ってくるが、1年かき回して終わり、とならないように、コミュニケーションをとって、県としてもしっかり気配りしていきたい。